

〔中期目標の設定〕

中期目標	達成状況	中期目標の達成状況の結果と分析
<div>【安全・安心な教育の推進】</div> <div>全市共通目標</div> <div>①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に来るのが楽しいですか」の項目について最も肯定的な「当てはまる」と答える児童の割合を60%以上にする。</div> <div>②令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、最も肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。</div> <div>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</div> <div>全市共通目標</div> <div>① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。</div> <div>② 令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65.0%以上にする。</div> <div>【学びを支える教育環境の充実】</div> <div>全市共通目標</div> <div>①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。</div> <div>③「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2（1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を、6か月までとする。）を満たす教員の割合を80%以上とする。</div>		

安全・安心な教育の推進（年度目標の設定）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	年度目標の達成状況の結果と分析
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標 ① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、 <u>肯定的に回答する児童の割合を85.8％以上にする。</u> ② 令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、 <u>肯定的に回答をする児童の割合を93.4％以上にする。</u>	B	・校内アンケートでは、（626人中588人）94.0％と上回っている。 1年93.7％ 2年89.5％ 3年91.6％ 4年89.6％ 5年93.2％ 6年93.3％ ・校内アンケートでは、（626人中598人）95.5％と上回っている。 1年94.5％ 2年97.2％ 3年93.6％ 4年94.6％ 5年93.5％ 6年97％

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況	年度目標の達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】 ・同学年での交流を通して、児童が楽しめる活動を充実させるとともに、互いに尊重できる仲間づくりをする。 指標 ・令和7年度の校内調査における「学校に来るのが楽しいですか」の項目について <u>最も肯定的な「当てはまる」と答える児童の割合を63.3％より増加させる。</u>	B	1学期末校内アンケートでは、61.8％（626人中387人）と目標を下回っている。 1年86％ 2年65％ 3年58％ 4年60％ 5年47％ 6年55％ ・同じクラスの転校生のことを考え学校探検を計画したり、クラス会議をしたりといろいろ自分たちで計画できる機会が増えてきた。 ・計画的に学年集会を行い児童が楽しめる活動になるよう取り組めた。児童中心に進行を行い、主体的に進めることができている。 ・学校全体として、指標の数字に対して未達の学年が多い。行事に対して、子どもがやりがいをもって取り組めるように、目標を持ち、意識させ、どのような取り組みができるか考えられる機会をたくさん作る。
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・児童どうしが助け合ったり、支え合ったりできるような仲間づくりを目指して、話し合い活動を充実させる。 指標 ・学級活動の時間に、学級のみんなで話し合う活動を <u>月に1回以上行う。</u>	B	・クラスの役に立つ係の仕事をテーマに話し合い、それぞれの係で仕事内容を話し合う場を設けた。 ・わかりやすく説明をし、簡単な選択肢を提示して担当児童の意見を班の友達に伝えることができた。 ・月に1度（できていない月もあるが…）自分たちの学級について、どんなところが足りないかや、どんなところができているかの話し合いをしている。 ・最近、仲間とよりよいクラスにするために自分たちで自主的に取り組みを企画し、実践しようとする児童が増えてきた。 ・全員で話し合う機会は作っていても、発言する児童が偏っていたり、友達の意見を真剣に聞こうとする態度が十分に育っていなかったりするところが課題であると思います。
改善点		
・運動会のスローガンなど、運営委員会での話し合いで全てを決めるのではなく、各学級の話し合いから案をもらい、運営委員会で意見を集約して取りまとめていくというシステムを作れば、学校行事にも主体的に参加できるようになるのではと考える。 ・学校が楽しいと思えない子の背景を知り、保護者や教職員で連携を図る。 ・日頃の学習から、「学校だからできる」活動や学習を児童に経験させることで、「学校が楽しい」「学校が大好き」だと感じるができるようにしていく。		

未来を切り拓く学力・体力の向上〔年度目標の設定〕

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	年度目標の達成状況の結果と分析
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標 ① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、 <u>最も肯定的な「思う」</u> と回答する児童の割合を40.1％以上にする。 ② 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、 <u>最も肯定的な「好き」</u> と回答する児童の割合を64.0％以上にする。		・校内アンケートでは、（626人中310人）49.3％ 1年81.7％ 2年35.5％ 3年45％ 4年42.3％ 5年42.5％ 6年48.7％ ・校内アンケートでは、（626人中446人）71.2％ 1年90.9％ 2年81％ 3年71.7％ 4年65.8％ 5年66.9％ 6年54％

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達 成 状 況	年度目標の達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・学習において、ペアやグループで聴き合う活動をどの授業でも取り入れることで、「ケアの関係」をつくる。 ・ジャンプの課題を授業に取り入れることで、児童が夢中になって学習に取り組めるようにする。	C	1学期末校内アンケートでは、49.3%（626人中308人）と目標を下回っている。 1年81% 2年36% 3年45% 4年42% 5年43% 6年49% ・学年で計画立てて、各学級で算数科などのジャンプの課題や国語科での教材文との対話の形式の授業をおこなうことができた。「ここがわからない」と、困っていることを言える児童が増えた。また、教える側も「どこまで分かった？」と声かけする児童も見られるようになり、ケアの関係ができてつつある。算数科などのジャンプの課題では、難しい問題にも友達と一緒に最後まであきらめずに解こうとする姿が多く見られるようになった。 ・座席の配置を、コの字型やグループ型にすることで、わからないことを相談しやすくなったり、自分の考えを友達と共有したりする姿が多く見られるようになった。 ・取り組み内容は各学級で行われているが、校内アンケートの結果としては目標を達成しているとはいえない。
指標 ・令和7年度の校内調査における「ペアやグループで分からないところはきいたりきかれたりして、学び合うことができていますか。」の項目について、 <u>最も肯定的に回答する児童の割合を前年度（55.2%）以上にする。</u> ・学年でジャンプの課題または物語文の教材文との対話の形式の授業を月3回以上取り入れる。		
取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】 ・一年間を通し、遊びながら体を動かすことができる環境を整える。	B	・もともと肯定的な「好き」と回答する児童の割合は71.2%であった。 ・昼休みに運動場・体育館・ピロティの3つの場所をローテーションで活用したり、なわとびのジャンプ台やストラックアウトを新たに設置したりして全学年が楽しく体を動かせる環境を整えた。また、みんな遊びや学年集会、運動委員会の50m計測週間など体を動かす機会を増やす取り組みも行った。 ・猛暑の影響で、体を動かす機会が減ってしまった。学年が上がるにつれて、好きと答える児童が減少傾向にある。
指標 ・令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、 <u>最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度（72%）以上にする。</u>		
改善点		
・「学び合い」の実現に向けて、教材や課題の設定がより重要になってくる。それに伴い、学び合うことの楽しさに気付くことができれば、児童の学習意欲の向上、友達どうし支え合えるケアの関係づくりにつながると思う。より成果が出るように、今後も学年打ち合わせで学年間で情報を共有し、課題を精選して取り組んでいく。 ・これから涼しく運動しやすい時期になるので、「運動が好きでない」と答えた児童が遊びたいと思えるように、引き続きみんな遊びや運動委員会の強調週間などの取り組みを進めていく。		

学びを支える教育環境の充実（年度目標の設定）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	年度目標の達成状況の結果と分析
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標 ①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ③「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する <u>基準2（1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を、6か月までとする。）</u> を満たす教員の割合を85.8%以上とする。		<ul style="list-style-type: none">・4月～9月は1.5%と目標を下回っている。・対象教職員40名中45時間を超える月が6か月…0名、5か月…0名、4か月…4名、3か月…3名、2か月…2名、1か月…5名、0か月…26名 6か月中3か月までの教職員の割合が90%（40名中36名）で現時点で達成水準を上回っている。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況	年度目標の達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】 ・ICT教育アシスタントを活用するなど、協働学習支援ツールを用いた学習に必要な研修を随時行い、実践する。（高学年） ・基本的な操作（電源の入れ方、カメラの使い方など）を身につけさせたり、心の天気やnavimaに取り組ませたりする。（低学年） 指標 協働学習支援ツールを用いた学習を、 <u>学年団で計画しながら学期に3回以上実施する。（高学年）</u> <u>毎日学習者用端末に触れ、端末操作の基本的技術を身につける。</u>	B	<ul style="list-style-type: none">・心の天気は毎日入力し、自分たちで管理するように声掛けをしている。その結果、毎朝タブレット端末に触れ、活用することが定着してきた。・調べたことをグループでまとめたり、学級で発表したりすることを楽しむ児童が多い。また、係活動などでも端末を使って、自分たちの取り組みを学級に発表する児童もいる。・協働学習支援ツールを使用して取り組むときもある。しかし、児童の端末の電波が弱く、なかなかつながらないので、使いにくいと感ずることがあった。
取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・月に1回「ゆとりの日」を設定する。毎週水曜日は最終退勤時刻を早められるようにする。 指標 ・毎月の「ゆとりの日」の退勤時刻を17時半に設定し、実行する。	B	<ul style="list-style-type: none">・月に1回「ゆとりの日」を設定している。ゆとりの日に17時30分時点に残っている教職員数は4月7名、5月0名、6月0名、7月4名、8月23名、9月3名、10月16名となっており、校外研修のあった6月、目標設定当初の5月は概ね達成できていたものの、その他の月では、十分な成果には至らなかった。・毎週水曜日には退勤時間を18時としている。他の曜日より早い退勤を意識している。
改善点		
<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末の入れ替えが10月にあり、端末操作にかかる時間が改善される見込みがあるため、さらに活用していきたい。・ゆとりの日を少し前から再度周知し、意識して計画的に仕事ができるようにする。・日々時刻を意識して仕事の効率化を図る。		